

## 令和2年度第1回三田市総合教育会議 議事録

|                |   |
|----------------|---|
| 会議の名称          | 令和2年度第1回三田市総合教育会議   |
| 開催の日時          | 令和2年8月6日(木) 14時30分～16時  |
| 開催の場所          | 市役所本庁舎3階302AB会議室  |
| 出席した委員の氏名      | 森市長、鹿嶽教育長、吉田教育委員、田口教育委員、三木教育委員、中上教育委員   |
| 出席した庶務職員の職及び氏名 | 高見子ども・未来部長、松下学校教育部長、西垣戸市長公室長、脇田子育て応援室長、外岡学校教育部長、太田政策課長、後田幼児教育振興課長、浅野教育総務課長、上野教育総務課担当課長、山本学校教育課長、村岡教育研修所長、久後幼児教育振興課参事、榎井政策課係長、増田幼児教育振興課係長                          |
| その他出席者         | なし  |
| 傍聴者の人数         | 7人  |
| 議 題            | (1) 協議事項<br>① 三田市総合教育会議の運営等に関する規程の改正について<br>② 三田市立幼稚園再編計画(案)について<br>(2) 報告事項<br>① 三田市立学校再編計画(第1次計画)について<br>② 新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う市立学校の対応について                       |
| 会議の概要<br>(結論)  | (1) 協議事項<br>規程の改正を行い、三田市立幼稚園再編計画(案)について協議を行った。<br>(2) 報告事項<br>三田市立学校再編計画(第1次計画)の取り組み状況と今後の方向及び新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う市立学校の対応について報告を行った。                               |
| 公開・非公開の<br>区 分 | 公 開   |
| 使用した資料         | (1) 三田市総合教育会議の運営等に関する規程の改正について資料A<br>(2) 三田市立幼稚園再編計画(案) 資料B<br>(3) 市立幼稚園保護者懇話会の概要について資料C<br>(4) 三田市立学校再編計画(第1次計画)について資料D<br>(5) 新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う市立学校の対応について資料E |
| 連 絡 先          | 市長公室政策課<br>電話(079)563-1111 内線(2212)   |

### 1 開会

- ・西垣戸市長公室長の司会により開会、配付資料の確認等
- ・三田市総合教育会議の運営等に関する規程第4条第5項に基づき、議事進行を森市長に交代

### 2 議事

(1) 協議事項

① 三田市総合教育会議の運営等に関する規程の改正について

<太田政策課長から説明>

森 市 長：ただいまの三田市総合教育会議の運営等に関する規程の改正の説明に関して、教育委員のみなさまからご質問等ございますでしょうか。

(異議なし)

森 市 長：本規程の改正につきましては異議なしということで、提案の通り改正することとさせていただきます。

それでは本日の会議を含めまして、今後の総合教育会議につきましては改正後の三田市総合教育会議の運営等に関する規程に基づき進めさせていただきます。

② 三田市立幼稚園再編計画（案）について

<脇田子育て応援室長から説明>

森 市 長：では、再編計画（案）について具体的な協議に入りたいと思います。前の基本方針を踏まえて今回再編計画（案）をまとめましたが、全体的な感想があればお聞かせいただければありがたいと思います。

吉田教育委員：ここ数年、農村部での園児数の減少は本当に著しいものがあります。

そんな中、幼稚園の先生方の大変な努力及び工夫により温かい保育がなされてまいりました。それについては非常に感心しておりますが、就学前の子どもたちの成長の著しい時期には、やはり同年代の子どもたちと一定規模の集団の中で生活することは必要であると考えます。社会性が育つうえでは、人数が少ないというのは非常に課題が残ると考えます。

また、女性の社会進出に伴い保育ニーズも多様化しております。教育だけではなく、保育においても集団生活は非常に重要なことだと思っております。

次に小学校への接続についてですが、現在三田市においては1小学校、1幼稚園の関係が保たれており、非常にしっかりとした関わり合いができております。統合後は、隣接する幼稚園のない小学校が発生してまいります。小1プロブレム解消の観点からも、小学校から就学前子どもたちへの働きかけということが大きな課題になると思います。

久 後 参事：幼児期の学びの芽生えを小学校の学びにつないでいくことはとても大切なことだと幼稚園としても考えております。そのためにも、幼稚園教育要領にある幼児期の終わりまでに集団の中で遊びや生活を通して育ててほしい姿について、小学校の先生方に丁寧に伝えていくことがとても大切だと感じております。幼児期の成長や学びを小学校の先生方と共有し、幼児期の教育と小学校との教育の円滑な接続を図れるように今後も努めてまいります。

吉田教育委員：就学前の子どもたちの数からすると、松が丘幼稚園も減少傾向が大きいですが、3歳児保育の実施により、ある程度の就園が見込まれるとのことですが、現状も含

め詳しい説明をお願いします。

脇田 室長：今年度の園児数は4歳児4人、5歳児7人の合計11人です。

13 ページの資料4で就学前の年齢別人口を参考に示しておりますが、松が丘幼稚園区の3歳児の人数は令和3年度20人、令和4年度15人、令和5年度21人と推計しております。松が丘幼稚園は、市街地に近く、他の園区からの通園も想定しております。今後環境も変わってくる可能性がございますが、今のところは3歳児保育を実施することにより、集団規模の確保も見込んでおり、今回の計画（案）におきましては、幼稚園として維持すると判断させていただいております。

吉田教育委員：計画（案）4 ページに記載の預かり保育についてお尋ねします。保育の必要性のある2号認定子どもが在園している認定こども園で1号認定子どもに対する預かり保育を実施する場合、1号認定子どもの預かり保育を対応する先生がいらっしゃると理解してよろしいですか。

それと預かり保育時間の延長というのはどのように考えておられるのか、そして、夏休みなど長期休業中に1号認定子どもは利用できますか。

後田 課長：まず認定こども園における預かり保育については、保育が必要な2号認定子どもが在籍して、夏休み期間も保育を実施するため、1号認定子どもについても受け入れは可能となり、夏休み期間も利用していただくことを考えております。

ただし、夏休み期間に1号認定子どもが預かり保育を利用する場合であっても2号認定子どもとは異なりますので、通常の預かり保育時間と同様に16時30分までということと考えております。

幼稚園の3園については、夏休み期間に預かり保育を実施することは今のところは考えておりませんが、平日の開園時間中の預かり保育を週5日まで拡充します。預かり保育の時間としては16時30分までで、保育時間そのものの延長は考えていません。

吉田教育委員：夏休み期間の認定こども園では、2号認定子どもは利用していますが、1号認定子どもも預かり保育として利用できるということによろしいでしょうか。

後田 課長：はい。ただし、1号認定子どもは16時30分までと考えております。

中上教育委員：通園バスについてですが、地域の路線バスとの兼ね合いはどうされるのですか。時間をかけて幼稚園3園を1園へ、4園を1園に統廃合されるのであれば通園の手段としてはどのようにされますか。1台でまわされるのですか、それとも数台用意されるのですか。

後田 課長：通園バスについては今後地域や保護者の方のお話を伺いながら、運用方法を考えてまいります。原則は、幼稚園がなくなることによって、通園距離が延びることへの対策と考えておりますので、閉園する幼稚園の園区にお住まいの方の子どもさんを対象にするということを考えています。2号認定子どもにつきましては保護者に送迎をお願いします。なお、預かり保育を利用しない1号認定子どもについては、往復の送迎を確保していかなければならないと考えております。いずれにしても、今後保護者のご意見を伺う中で、十分に考えながら、検討してまいります。

中上教育委員：2号認定子どもについては保護者が送迎すると書いてありますが、保護者の負担をできるだけ減らそうと思えば、時間が違う降園時はともかく、登園については、1号認定子どもの受入れ状況により、バス座席に余裕があれば2号認定子どもについても、バスに乗せてもらうことはできないのでしょうか。

高見部長：保護者のご意見を伺う中で決定していきたいと思いますが、先ほども申しましたとおり、幼稚園が、地域からなくなることで園が遠くなることによる支援ということですので、今のところは1号認定子どもを対象と考えております。今後、保護者・地域のお話を伺いながら、先ほど課長が申し上げた通り計画（案）を進める中で、統合される園に通っておられる方を我々としては当然支援をしていかないといけないということを書いています。ただし、具体的なルートや、バスの規模を選定する中でご要望が出てきたときに、バスの余裕座席の利用に関する仕組みが可能か考えていきたいと思います。まずは優先すべきところを計画（案）の中では謳っております。

中上教育委員：できるだけ保護者の負担の少ないような形で、進めていっていただきたいと思います。よろしくお願いします。

森市長：保育と幼児教育との原則のうえに立って、更に保護者の方々の負担をどう考えていくか、是非、事務局の方でも検討をよろしくお願ひしたいと思います。

ここまでを通して、再編計画（案）につきましてご質問やご意見がございましたら、どうぞお願いします。

三木教育委員：三田市はニュータウンに人口が多く、ニュータウンを中心に就学前の教育・保育について、私立認定こども園とは役割分担をされて、協力し、一緒に取り組んでおられます。これは保護者のニーズなども聞かれて本当にうまく運営してこられていると思います。

今回の市立幼稚園再編計画（案）は、市立の良さと役割を重視しながら、民間に移すのではなく、市立認定こども園として考えられているところがすごく良かったと思います。

小学校もそうですけれども、特別な支援が必要なお子さんに対して、この再編計画（案）では、市立としての役割を維持し、特別支援教育を充実し、また、セーフティネットとしての役割も考えていただきたいと思います。子どもたちは集団の中で成長していきます。最初の集団生活は幼稚園の頃からはじまり、集団の中で成長、自立をはじめるとこのときからだと思いますので、しっかりと役割を考えながら、取組んでいっていただきたいと思っております。よろしくお願いします。

久後参事：特別な支援を要するお子さんの数というのは、年々増えているように思っています。その中で幼稚園はこれまで積んできた実践や研修を通して、専門的な知識を身につけながら、職員の資質向上を図っています。

今後も、個々の発達に応じた支援を行いながら集団の中で、子どもたちが育ち合うような支援をしていきたいと考えております。

また、子どもにはそれぞれ、様々な背景があると思いますが、全ての子どもたちが等しく安心して幼児教育を受け、集団の中で健やかに育つように家庭や関係機関と

連携しながら、子どもたちの育ちを支えていけるように、公的な教育・保育の場である市立幼稚園の役割を果たしていきたいと考えております。

鹿嶽教育長：市立幼稚園については、園区はありますけれども、基本的には定員以内であれば、どここの幼稚園にも行けます。私立も含めて園を選ぶことが十分できる状況にはなっておりますが、やはり近くの園に通いたいという思い、それは非常に重要な部分であると思います。

今回の幼稚園再編計画（案）についても色々な意見が出てくるのではないかと思います。就学前施設を利用している方からいろいろと聞く中で、丁寧に進めていく必要があると思っています。当然、もともとの基本方針は教育委員会で策定させてもらったものでありますし、幼稚園との関係というのは非常に強いものがありますので、協議や連携のうえ一緒に進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願ひします。

高見 部長：お手元に示していますようにあくまでも案ということで作っております。正式にはこの後、教育委員会で手続きをしてこの計画を案として決定をいただく中で、まずは議会常任委員会にご説明をしてまいりたいと考えております。

今の予定では、9月の中旬以降にこの再編統合の対象の7地区で説明会を開催して、地域の方々、保護者の方々のご意見をお聞きする中で、目標としては令和3年3月末までには、計画として最終確定したものを作っていくと考えております。

森 市長：それではこの幼稚園再編計画（案）を元に今後取り組みを進めていくことにしたいと思います。

## (2) 報告事項

### ① 三田市立学校再編計画（第1次計画）について

<外岡学校教育部長から説明>

森 市長：ただ今、学校再編計画【第1次計画】（案）の取り組み状況と今後の方向について説明がありました。はじめに、学校再編の意義・目的について、再確認させていただきたいと思います。私も毎年学校を訪問し、子どもたちの様子を拝見させていただいており、最近では、三田小学校、すずかけ台小学校、小野小学校を訪れました。これからの時代を考えると、一定規模以上の集団の中で学んで欲しいと思っています。学ぶ環境を作っていくことは大事なことであり、しっかり議論したいと思っています。

中上教育委員：上野台中学校と八景中学校の再編計画ですが、仮に今後進めていく中でスクールバスを走らせることによる影響についてですが、これまで路線バスで通学していた中学生がスクールバスを利用することにより、路線バスの乗客が減少し、地域を運行している路線バスが採算面から廃止されたり、大幅な減便をされることになったら、地域ももちろん困るが、中学校卒業後の生徒にとっても、高等学校進学以降三田駅までのバスによる通学方法がなくなることから、どのようにして登下校すればいいのか。スクールバスの導入については慎重に進めていかないといけないのではないでしょ

うか。

外 岡 次長：おっしゃるとおり現在子どもたちは路線バスを使っております。

今回統合によりスクールバスを運行することで地域交通全体への影響があるということも想定しておりますし、実際ご意見もいただいているところです。

それにつきましては現在方向性を出している訳ではありませんが、市の全体の交通体系の部分とも十分に調整をしながら、またバス事業者とも協議する必要があると思っております。課題として、認識はしておりますので、今後再編（案）がまとまれば、市民のみなさま方が不安を感じないように調整をしながら進めてまいりたいと考えております。

森 市 長：私が市内公共交通につきまして責任を持っておりますので、教育委員会が進めるスクールバス構想と十分に連携をとりながら、公共交通をどのようにしていくかということと連携を図りながらやっていきたいと考えております。

また、今回の説明いただいた案は、子どもたちの理想的な環境を作ることを目的としています。何か教育長からありますか。

鹿嶽教育長：今回具体的な計画（案）を示させていただきました。学校の再編統合の議論については、一昨年市民のみなさまとともに「学校園のあり方審議会」において議論していただき、「三田市立学校のあり方に関する基本方針」を策定いたしました。考え方については十分議論されていると考えております。これからの社会の中で子どもたちがどう生きていくか、子どもたちを育てていく学校、特に小中学校の役割が重要であると考えています。三田市は大きな学校から複式学級を含む小さな学校までありますが、どのような学びの環境を与えるのかを考えた場合、私としては、一定規模の児童生徒がいる中での学び合いが大事と考えています。これからの変化の激しい社会の中で生きていく子どもたち自身が、単に知識や技能だけで生きていくというよりも、そういうものを身につけながら、人との関わり合いの中でどのように判断して行動していくのが大切です。そういった学びの環境を作ることが大事と考えます。私も教育長に就任してから学校をよく訪問しますが、三田の子どもたちは素直で学びの意識が高いと思っています。それが三田の子どもたちの学力に繋がっているのではないかと考えており、高い学びの意識の中で、より良い環境を大人が提供していく必要があると思います。地理的な条件等があり、再編統合には大きな課題もあると思いますが、これからの三田市や日本を担ってくれる子どもたちが育つ環境として、市議会等でも議論いただいておりますが、一定の規模を確保するため、三田でも再編統合を進めたいと思います。教育委員会だけで成し遂げることはできません。三田市のまちづくりとして進めていただければという思いです。

森 市 長：学校再編を実施する際の留意事項について教育委員会でまとめていただきました。

協議の手順としては、中学校から協議を進めるとしてはありますが、この点についていかがでしょうか。

鹿嶽教育長：小中学校の再編を考える中で、「三田市立学校のあり方に関する基本方針」を策定させていただき、中学校8地域で意見交換を実施させていただきました。小学校に対してはみなさまの思い入れがある中で、小規模な学校が多いこともあり、メリ

ットとデメリットという議論も多々ありましたが、地域との関わりが密接であるなど、再編を進めるには課題が多いと感じました。一方、中学校は、部活動の問題や教員の数がクラス数で決まることから免許外指導の問題もあります。すべてを一気に解決するのが一番良いのですが、それは現実的にできないので、やはり一定の順序を決める必要を感じました。高等学校に繋がる中学校の様々な課題を解決するのが一番であると考え、教育委員会から中学校の再編計画（案）を提案させていただきました。

森市長：市長の立場からすると、小学校区は地域との関わりが強く、まちづくりの根幹をなすものと思っています。これについては、地域の皆様と十分に議論して進めていきたいと考えています。中学校についても地域への影響がありますが、子どもたちのことを考えると、できる限り早く教育環境を整えて、勉強とクラブ活動ができるようにしたいと思います。議論としては中学校を優先していくこととしてよろしいでしょうか。

（異論なし）

森市長：次に学校再編に伴う課題についてですが、1番目に通学負担に関する事、2番目として、学校再編により教育環境が変わりますが、学校再編は教育環境を良くするということが本来の目的ですのでそれに伴う充実です。3番目に学校と地域との関係があります。4番目として、市は「三田市公共施設マネジメント推進に向けた基本方針」を公表しましたが、その中でも学校園は別途検討としており、施設の跡地をどう利用するのが大事だと考えています。学校の再編後の跡地利用として、地域の皆様に利用していただくのが望ましいと思っていることから、そうしたことを総合的に考えていきたいと思っています。それでは、この4つの課題を中心に委員の皆様のご意見をいただきたいと思っています。

田口教育委員：中学校の発展的統合再編には、通学への配慮が重要で高等学校へ通学する場合と同じように自転車や電車、バス等の利用形態を具体的に考える必要があります。中学生の許容通学時間を1時間程度として、新中学校の校区は藍中学校と長坂中学校それぞれの校区を合わせた範囲となるのでしょうか、高等学校への通学と違って、通学時間が1時間以内の範囲となるかどうか気になります。また、相野駅や広野駅へのアクセスについても安全で安心な通学路の確保等を考えないと地域の皆様の合意が得られないと思います。

外岡次長：長坂中学校までの距離は調査しています。藍中学校区で最も遠く篠山市との市境となる日出坂から長坂中学校まで約5キロ、つつじが丘であれば約6キロ、大川瀬は約8キロとなります。長坂中学校区で一番遠いのは上青野で約8.5キロあり、地理的には長坂中学校が概ね中央になると考えています。現状の通学手段から考えると、これ以上の距離は子どもたちにとって難しいと考えています。

吉田教育委員：子どもたちの学びの活性化や充実した教育環境は、中学校から早急に対処していくことが必要だと思いますが、大きな問題でもあり市も相当の覚悟をしていただかなければならないと考えます。財政負担の課題もありますが、充実した教育環境を作ることをまずやっていかないといけないと思っています。特に私が心配してい

ますのは、藍中学校と長坂中学校の統合を進めた場合に、統合した規模を維持できるのが約10年間で、その間に人口増がなければ、また再編しないといけなくなります。この基本方針で考えるとそのような見通しになっていると思います。ただ、広野駅前地区と相野駅前地区の整備計画があり、どの程度の人々が居住されるのか、小中学生が入ってくる可能性がある整備ができるのか気になるところです。これは教育委員会だけで考えられないので、市の政策としてそれについても検討し、統合した長坂中学校ができるだけ維持できて、全体として充実した教育環境が長く維持できればいいと思います。

## ② 新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う市立学校の対応について

＜山本学校教育課長から説明＞

田口教育委員：1学級の定員については、今、兵庫県は小学校4年生までは35人となっております。ただ、5年生と6年生の場合、1学級の定員は40人です。その場合、大規模な学校の場合は1つの教室に40人近くの児童が在席していることもあり、社会的な距離の確保が、なかなか難しいので、今回の新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、先月にも県の教育委員会の方に要望を出し、せめて小学校5、6年生まで35人学級の実現を県から国の方にも要望して欲しいということをお願いしてきたところです。

40人学級の担任となると教職員も40人分の児童・生徒を担当することになります。

ただ、学校の規模と教室の中にいる児童・生徒の人数ということはまた別な次元で考えていかないといけないと思います。

鹿嶽教育長：一定数の児童生徒たちの中で、色々な社会性を学んでいき、やはり一定数の同級生の中であっても、クラス替えがあったりと、必要と思われることなどをきちんと考えていかないといけないと思っています。

吉田教育委員：今のコロナ禍の影響によって、授業形態がずいぶん変わってきております。

例えば、コロナ禍の前までは主体的で、対話的で、深い学びということで、できるだけ授業の中に、グループ学習など対話をとり入れて、児童生徒に説明させるなど教師が授業づくりを改善してきました。

ところが、そのコロナ禍の影響で、Webなど一方的に公表するような授業という形態が非常に多くなってきております。

それからもう1つは教科書の採択についてです。

教科書が以前と比べて、非常に大きくなっており、今の小さな机の天板の上では安定して置くことが難しくなっております。それを改善するため机を従来よりも大きなものにすると、今度は教室における机の占有空間が広がり、机間指導さえできないという状態になってくるということで色々な形の授業改善の動きと、現在の学級編制上の1クラスの児童生徒数が合わなくなってきています。

でもなかなかそんなすぐに改善できるような状態ではないのですが、授業内容が



変わり、教科書に掲載される情報量が多くなっている中で、教室内のスペースを減らすということは非常に大きな課題であると考えています。

児童生徒の1クラスの人数を減らしていただくように教育委員会はもちろん要望はしていきますので、是非市長からも後押しをほどよろしく願いいたします。

森 市長：市としても、子どもたちの教育環境について考えていきたいと思えます。

最近、東京のマスコミの方とお話をさせていただきますと、三田にとってより大きな転機、チャンスですよと言われました。

今日も新聞に載っていましたが、要は、全体として、人口は減少するのですが、今回のコロナ禍において、問題なのはやはり東京に人が集中しているということです。人口減少の中でも分散して、みんなが、日本国土が持っている素晴らしさの中で、まちづくりを進めていかなければなりません。三田市につきましても今年度中にいろんな手立てを考えてまいります。スマートシティ構想をしっかりとまとめていき、来年度から本格的に、第5次総合計画を策定してまいります。

総合計画の中でその辺をしっかりとやらせていただきたい。ある意味ではオンライン環境を市役所も含めて整えていく。そうすると三田にとってはなんといい都市部に近い自然環境と、やはり誇るべき大学まである教育環境、それに、オンライン環境が整えば、交通問題も含めて新しい時代への三田ができると思っています。

そういう三田版のスマートシティ構想を、色々な形の有識者の意見、あるいは市民の方の意見を聞きながら進めていきたいと思えます。

三木教育委員：今コロナ禍で色々大変な中で、オンラインで環境が整えば様々な可能性があると思えます。三田はそういう方面で進んでいけば、移住してくださる方も増えてくるかもしれませんし、いい方向にいったいと思えます。

また、学校の方も GIGA スクール構想を早急に整備していくということですが、環境が整うだけではなく、それを使いこなす力がないとなかなか学びに繋がっていきませんので、環境が整った後に、指導員の方がしっかりと配置されて使いこなしていくというところが、大切ではないかと思えますのでよろしくお願いします。

森 市長：色々ご意見ありがとうございました。どの自治体も今、非常に、子どもも含めた市民の命を守るといふことと、経済生活をいかに守っていくかという中で頑張っています。

日本全体そして世界中がピンチであります、先ほど議論いただきましたとおり、未来に向かってのチャンスかなとも思っています。

当面、市としましては、感染防止のための諸施策に係る予算措置もさせていただきましたので、教育委員会と連携しながら実施していきたいと考えております。

また教育委員会におかれましては、ご意見を適宜いただいて、子どもたちのため、教育環境をしっかりと守っていただきたいと思っておりますので、今後とも、一層の取り組みをお願いしたいです。

以上で本日予定をしておりました議事は全て終了をいたします。本日は、様々な議題につきまして、率直で活発なご意見をいただいたことを厚くお礼申し上げます。

### 3 その他

特記事項なし。